

授業概要

歴史学がどのような学問なのか、3部に分けて考える。第1部（第1～3回）では歴史理論にもとづき、大学の「歴史学」では何を学び、それにどのような意味があるのかを扱う。第2部（第4～9回）では西洋史の理解に大きな影響を与えた、主に20世紀の歴史家たちの業績を実際に紹介し、それにより歴史理解がどのように変化したのかを具体的に検証する。第3部（第10～15回）はより新しい研究動向に着目し、人間と社会について歴史的に考える可能性を追求する。

授業計画

第1回	ガイダンス：講義の進め方について
第2回	『歴史学ってなんだ？』第1章を読み、歴史学と歴史認識について学ぶ
第3回	『歴史学ってなんだ？』第2章を読み、歴史学の社会的意義について考える
第4回	史学史の変遷と動向を学ぶ
第5回	歴史家の仕事①カー
第6回	歴史家の仕事②：フローデル
第7回	歴史家の仕事③：サイード
第8回	歴史家の仕事④：デイヴィス
第9回	歴史家の仕事⑤：ブロック
第10回	テーマで学ぶ①：社会史とは何か
第11回	テーマで学ぶ②：ジェンダー史とは何か
第12回	テーマで学ぶ③：文化史とは何か
第13回	テーマで学ぶ④：感情史とは何か
第14回	テーマで学ぶ⑤：グローバル・ヒストリーとは何か
第15回	テーマで学ぶ⑥：歴史修正主義とは何か
第16回	筆記試験

到達目標

- 歴史を理解する上で大きな影響を与えた歴史家たちの作品を読み、ものの見方、史料の扱い方、時代背景と歴史学の関係性を理解できる。
- 文学、哲学、思想の基礎的な知識をもとに国際的視野に立って人間と文化・歴史の関わりを理解できる。

履修上の注意

- 指定したテキストや資料は授業開始前に必ず読んでくること。
- 出席率が70%に満たない場合、課題の未提出などは単位取得を認めない。

予習・復習

それぞれのパート終了時に授業中に示す課題に対する短いレポートの提出を求めるので、毎回内容を復習しておくこと。次週以降の授業でフィードバックを行い、受講生間の意見交換と理解促進を図る。

評価方法

筆記試験 50%、授業内課題 30%、受講態度 20%

テキスト

参考書：小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書、2004年